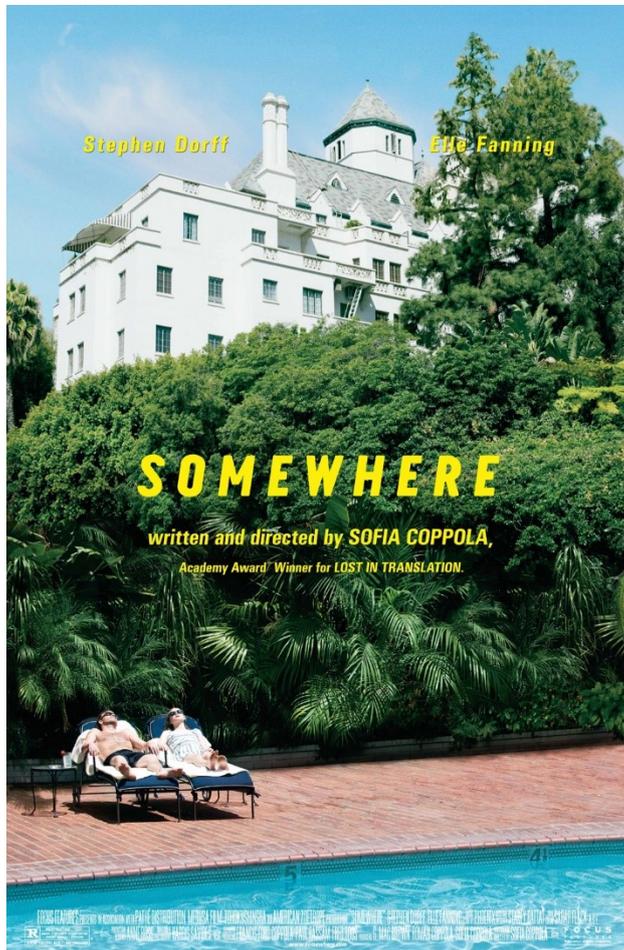


『SOMEWHERE』 2010



©2010-Somewhere LLC

映画批評

『SOMEWHERE』 —取り戻せた父と娘の時間の心象

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

2011.12.19 ©m.tsukada..

『SOMEWHERE』はソフィア・ Coppola監督の『ロスト・イン・トランスレーション』、『マリリー・アントワネット』に次ぐ作品である。2010年ベネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞した。

父親ジョニーにとっては忘れかけていた何かを思い出させる特別なもの、娘クレオにとっては忘れられない時間がある。ソフィア・Coppola監督は Somewhere? 「大切な日常生活はどこにあるの」と映画で問いかけている。

映画冒頭にフェラーリを運転してレーシング場を同心円上を渦巻くように何回もグルグル疾走するシーンが登場する。これはスティーヴン・ドーフの心象、つまり彼の脳内状況を円心上に渦巻くスピード感で象徴的に映像化している。

ローマで開かれた国際映画祭の受賞式。そこでのスピーチやインタビューの応答は英語に通訳されない。すべて騒音の中で heart-to-heart 方式ですませるインタビューである。TVアナウンサーのイタリア語だけが喧騒とした雰囲気の中を響きわたる。そしてその場を慌ただしく逃げ出すTシャツ姿の父と娘の短いシーンに変わる。ここで初めて華やかな喧噪から逃げ出すことによって、いつも離れて暮らしていた父と娘が行動をともにできる幸せな共犯者意識を観客に見せつける。



↑ 俳優業で多忙な父を訪れた幼い娘と、くつろぎのひと時

翌日娘(エル・ファニング)のフィギアスケートに父親(スティーヴン・ドーフ)が同行するシーンでは、ゆっくりすぎるくらいにゆっくりと時間が過ぎていく。娘の成長を眼前にする父親の心象、それはロサンゼルス的高级ホテル“シャトー・マーモント”で生活して、出前ダンサーを部屋に呼んで眺めていた、彼のいつもの享楽とは全く違うものである。フィギアスケートをしながら、ときどき視線を父親に向ける娘。それを受け止める父親の表情。それらのシーンには分かち合う父と娘の心の安らぎがほとばしりでている。

ソフィア・ Coppola監督は動と静を分けて見事な対象的なシーンとして表現する。背景に余韻の残る 15 曲を流してさらなる父と娘の共有する心象を詩情豊かなものにする。映画では”映像”が“言葉”よりおおくのことを語るのだが、その映像をじれっとなるほどの時間で見せることによって、日常の慌ただしく過ぎ去る時間の虚しさ、倦怠や癒しの潜在的な心象を顕在化して映像化するのソフィア・Coppola監督の視点である。



↑ 騒音のなかで、TV アナ主導の heart-to-heart 方式ですませるインタビュー



↑ 孤独な娘はクロスワードで時を過ごす



↑ 多忙な父が娘と一緒に食事を楽しむ至福のひとつ



↑ ソフィア・ Coppola—監督と撮影主任カメラマン

**【映画情報】**

2011年4月2日(土) 新宿ピカデリーほか全国ロードショー

監督・脚本: ソフィア・コッポラ

製作: G・マック・ブラウン、ローマン・コッポラ、ソフィア・コッポラ

製作総指揮: フランシス・フォード・コッポラ、フレッド・ルース

撮影監督: ハリス・サヴィデス プロダクション・デザイン: アン・ロス

編集: サラ・フラック

衣装デザイン: ステイシー・バタット

音楽: フェニックス

出演: スティーヴン・ドーフ、エル・ファニング、クリス・ポンティアス

2010年/カラー/98分/ 配給: 東北新社

公式サイト: <http://www.somewhere-movie.jp>

Trailer: <http://www.imdb.com/video/imdb/vi2394490393/>

---

© m.tsukada. All Rights Reserved.